

医家隨想

大袈裟な表現

豊 泉 清

平成、21年秋に東京の博物館で奈良・興福寺の門外不出の阿修羅像の展覧会が開催された。その阿修羅像は、頭が三つ、腕が六本、つまり三面六臂である。残念ながら見学の機会に恵まれなかつた。群馬県下では、昔から高校の修学旅行は奈良や京都の神社仏閣を巡るのが恒例となつており、私も五十数年前に様々な仏像を拝観した。若い頃の見聞の体験が高齢になつても仏像や仏教思想に惹かれる下地になつてゐると感じてゐる(下図参照)。



】空想してみた。

阿修羅は、古代インドの言語である梵語の発音の漢訳である。漢字を單なる発音記^{マニラ}として利用しているに過ぎないから、漢字そのものに意味はない。アシュラとは古代インドで聖なる天上の神々に挑戦する悪神の名前だつたが、仏教に取り入れられて仏法の守護神に変身してしまつた。阿が脱落した修羅も同じ意味で、闘争を好む悪神という原義から、激しい戦乱の場の比喩として使われ、修羅の巷とか修羅場を潛り抜けるといつ慣用句が生まれた。

阿修羅の他にもインドに存在する他の宗教の神々が仏教に取り込まれ、中国を経て日本にまで伝えられた。帝釈天、弁財天、水天宮、閻魔、夜叉、毘沙門、鬼子母神、歡喜天、金比羅などは、本来はバラモン教やヒンズー教の神々だったそうである。仏教の神々は意外にも雑多な混成部隊である。

全国各地に「觀音山」、地藏山、藥師山、普賢岳、大日岳、釈迦ヶ岳、華嚴瀧、法師溫泉、不動坂、如來堂、弁天町、羅漢町など、仏教や仏像に由来する地名がある。また日常会話でも、釈迦に説法した人寄れば文殊の智慧、仏の顔も三度知らぬが仏馬の耳に念仏、地獄の沙汰も金次第、觀音開き、阿弥陀籤など、仏教関連の成句や慣用句をよく口にする。一般庶民の日常生活に仏教が深く浸透していることを物語っている。

こんな言葉も仏教に由来しているのかと知つて驚くことがしばしばある。例えば、刹那と億劫という言葉も仏教思想に基づく言葉だそうである。仏教では一秒の何百分の一といつ極めて短い時間を刹那と呼び、億の何十乗といつ途方もなく長い時間を億劫と呼ぶ。刹那はほんの一瞬間といつ意味から、現在だけ満足すればよいこと、刹那主義といつ言ふ方が生まれた。億劫は余りにも長すぎて数えるのが面倒くさいことから、気が進まない

ところの意味で使われる。つまり刹那と億劫は時間の長短の問題にあって一対になつてゐる。なお、亀の甲より年の劫(こう)のよつて、劫は単独で「こう」と読む。つまり億劫(おつくり)は慣用化した諺語である。

お寺の山門の左右に立つてゐる「王様の像」は、一方が口を開け、他方が閉じてゐる。これを阿吽(あつう)と呼ぶ。古代イングの梵字のアルファベットは、アガ最初の発音、ウンが最後の発音だそつである。アとウンの漢字表記が阿吽である。英語のAとZのよつて、全ての物事の最初と最後の象徴である。阿吽には吐く息と吸つ息という意味もあり、阿吽の呼吸は、一人の人物が協力する際に、双方の気持ちがぴたりと一致することを指してゐる。

今は使われないが、末は博士か大臣かといつ言葉があつた。成績優秀な学生に期待する出世の象徴のよつたものが昔はあつた。今でも同窓会などで、社会的に際立つた活躍をしてゐる同級生に、酔つた勢いで、「お前が出世頭だな」などと言つたが、昨今は日常会話であまり出世とは

やはり経済的に苦しい場面で、金の遣り繰りに「四苦八苦ある」と表現する。四苦は人間の最も根源的な生老病死といつ四種類の苦を指す。その他に愛別離苦(愛する人と別れる苦)や、怨憎会苦(嫌な奴と出会つ苦)や、求不得苦(欲しい物が手に入らない苦)や、五蘊盛苦(人体の五感から生じる苦)といつ四種類の苦もあり、合わせて八種類の苦があると仏教は説いている。四苦八苦も仏教思想に由来する表現である。

今は使われないが、末は博士か大臣かといつ言葉があつた。成績優秀な学生に期待する出世の象徴のよつたものが昔はあつた。今でも同窓会などで、社会的に際立つた活躍をしてゐる同級生に、酔つた勢いで、「お前が出世頭だな」などと言つたが、昨今は日常会話であまり出世とは

言わない。出世も経典に載っている仏教語だそうである。衆生救済のために仏陀がこの世に現れるとこつ意味の出世ど俗世間を超越した仏門で修行を積むつまり出家と同じよつた意味での出世があり高い位に昇ることを出世と呼ぶよつては、さうして卒業式の歌の文句ではないが、一般人が「身を立て 名を挙げる」ことも出世と呼ぶよつてなつた。出世した人物が、世のため人のために社会貢献をすれば、この世に現れた仏陀が衆生をました

救済するのと同じかも知れない。

精進料理という言葉がある。肉や魚など動物性の食品を摂らない昔の僧侶の食事である。また野菜のテンプラを精進揚げともいづ。精進には一通りの用法がある。先ず仏道修行に励むという本来の用法は、努力と同じよつの意味である。潔斎と組み合わせた精進潔斎といつて言葉がある。潔斎は酒や肉類を断ち、薦戒沐浴して身を清める行為である。やがて酒や肉類を断つ潔斎の意味が精進と重複し、精進だけでも菜食主義を意味するよつな用法が派生した。

話し言葉の「お坊さん」と相当する漢字語には、僧侶、和尚、坊主などがある。和尚も梵語の漢訳で、新弟子を指導する師匠を指し、徳を積んだ高僧に対する尊称だった。和尚を禪宗では「おじよ」、「と読むが、天台宗では「かしょう」と読む。また淨土真宗では「わじょう」と読んで、和上と書き、宗派によって読み方や漢字表現が異なる。

お坊さんの坊といつ字は、本来は防と同源で、洪水を防ぐ堤防を意味し、そこから町の区画も指すようになつた。石川県金沢市に香林坊といつ地名がある。坊はまた曰大な建物も意味するようになつた。兵庫県の有馬温泉には、他の温泉地には見られない、坊と名乗る旅館がいくつもある。僧坊や宿坊など、お寺の大きな建物も坊と呼ぶ。つまり坊主とは、本来は寺の建物の所有主、つまり坊の主だから、和尚と同様に仏道修行者の尊称だったと思われるが、生臭坊主、乞食坊主、三田坊主、やんちゃ坊主、いたずら坊主、それに主を省略した暴れん坊、甘えん坊、けちん坊、食いしん坊、朝寝坊、風来坊など坊主や坊には軽蔑や揶揄のニュアンスが込められてゐる。僧侶に面と向かつて坊主とは呼ばない。和尚も坊主も同じ仏道の修行者だが、坊主だけに何故、コアンスの異なる用法が生じたのだうか。奇妙な現象である。

読書二昧や贅沢二昧など、二昧（さん

まじ」とこの言葉をよく口にする。他の言葉に續くと連鎖現象で「やんまじ」と濁つて読む。二味も梵語の漢訳で、サンマイとは仏教界で精神を統一し、雑念を排除して到達する無念無想の境地を指し、三といつ数字とは関係ない。読書二味は一心不乱に読書をすることだが、鷺沢三昧のように悪い二コアンスでも使われる。私は診療の合間の短い時間を利用して参考書を繙きながら雑談を搔き集め、片端から億劫がらずには難記帳にメモしておき、暇を見つけては駄文を綴つて寄稿するのが趣味である。それを執筆二味と表現したら、大袈裟すぎるといって笑われるだらうか。実は大袈裟も仏教由来の言葉である。袈裟は僧侶が衣の上に左肩から右の脇に掛けた着用する長方形の布である。大きな袈裟といふ意味の大袈裟は誇張の比喩として使われる。ケサも梵語の音訳で、本来は赤褐色という意味だった。転じて東南アジアの僧侶が纏つ赤褐色の僧衣を指すよつになり、日本に入

ると僧衣の上から斜めに掛けた長方形の布だけを指すよつとなつた。

仏像の展覧会の話題が契機となつて、仏教に由来する言葉の語源を調べ、日常語として使われているが、原義から逸脱した意味や用法も併せて調べてみた。本稿のネタ集めをしながら、億劫や火の車や出世も仏教由来の言葉と初めて知つたのに驚いた。この調子で仏教語の語源調べを続けて行けば、ゆうに一冊の本がまとまるほど、山のよつなネタが集まるに違ひない……と書くと、またまた大袈裟だと笑われそうである。

私は診療の合間の短い時間を利用して参考書を繙きながら雑談を搔き集め、片端から億劫がらずには難記帳にメモしておき、暇を見つけては駄文を綴つて寄稿するのが趣味である。それを執筆二味と表現したら、大袈裟すぎるといって笑わ

か？歴史的建造物で、非常に残念いうはない。

私は同年2月19日、東京新聞主催の旧吉田茂邸見学会に参加し、見学する機会があった。昭和44年西武鉄道の所有になつたそつて、見学会当日、大磯プリンスホテル職員の男性氏から縷々説明を受け、広大な敷地を散策し、本邸の居間と応接室に入る機会があつた。今となつてはまことに幸運であった。その日、他の旅行会のバスがひつきりなしに来て、大磯の超目玉の観光名所となつてゐるようだ。東京新聞のツアーでは、鳴立つ庵、大磯プリンスホテルの和食膳と、城山公園散策並びに貴我梅林觀梅がセットになつていた。

旧吉田茂邸は、明治17年（1884）

2009年3月22日午前6時頃、旧吉田茂邸から出火、邸は全焼した。総ヒノキ造りの母屋など合わせて1000平方メートルが灰になった。不審火か漏電

年に吉田茂元総理大臣の養父が建て、およそ一万坪の海沿いの小高い丘陵地にあり、眼下に大磯の海岸と海原が一望できる有数なロケーションである。戦後総理大臣として外國賓賓を招くため新築。

大磯、旧吉田茂邸

浜名新

2階建、建坪300坪の和風建築の本邸といっつかの建物と門、7賢堂、池、故人の銅像、犬の墓、築山と竹林がある。神奈川県は西武鉄道から敷地を買い取り、県立大磯城山公園と対で、公開する予定であるとのことでした。

日本の戦後政治を担つた歴代首相30人のうちすでに20人が鬼籍に入り、「国葬」で嘗めたのは吉田茂（1878-1967）ただ1人である。

彼の生前、日本のみならず海外からも著名な政財界人が大磯詣でをしたといつ。

篠 上 治 彦

オペラ・ミュージカル、小和田正まで、新国立劇場、東京ドームまで芸術大好き人間です。また、大洗、桜ヶ丘、海外までゴルフ大好き人間です。よろしくお願ひ申し上げます。

（眼科）

その面会場所は本邸（邸）の応接室と居間であろう。東大卒、イギリス大使、宰相、サンフランシス講和条約、バカラヤード解散、話題性の豊富な保守政治家の宰相で、戦後日本の「基礎」を築かれた「偉人」である。

邸内のバス駐車場から少し東に進むと「御門（講和記念門）」がある。「心字池」がある。「7賢堂」には明治黎明期の革命家である三条義美、岩倉具視、木戸考允、

大久保利通、伊藤博文、外交官の西園寺公望、吉田茂の遺影が祀られてある。ノーベル平和賞を授賞された佐藤栄作、元宰相は、故人を祀りして「7賢堂」を建立したという。

故人は犬好きで、サン、フラン、シスコ、ブランチー、ウイスキーなど奇抜なネームをつけ、愛犬を連れての散歩が日課で、愛犬の墓もあった。墓参が好きで、ドミニ「産ハバナ産を好んだといつ。眺望のよい高台に故人の銅像が建てられ、視線は遠くUSAのサンフランシスコへ向っているといつ。

見学が許された邸内の1階の右手にある応接室にある12畳くらいの板敷きの部屋には、椅子とテーブルは往時のままのよつで、壁の飾り棚には、貴賓者とのスナップ写真が飾られ、大平・カーター会談は居間で行われたといつ。居間には蒋介石総統から贈られた、裏表に描かれた墨絵の4連の「屏風図」が飾られ電気仕掛けとなっていた。

西側の大きな一枚ガラス窓から、しだれ白梅が咲き乱れ、遠方に冠雪した富士山が浮かぶ構図はすばらしい。故人のお気に入りの景色だそつだ。北側に崖が迫つていて。故人は機嫌がことのほか麗しいと、使用人に崖から水を流させ、「滝が流れているぞ」と満悦だったそつだ。いかにもありそつた豪華な気たつぶりな功なり名を遂げた好景観を連想させる挿話ではないか。ツアーライドに対する解説の中身は多少膨らんで確信に満ちた伝説となつてゐるにしても……。

冬の眺め

有 泉 七 種

熱帶樹

昔、ゴルフを楽しんだいたいの」とい
いまも昔も変わりはないが、冬季にはい
るじ 信州のゴルフ場は 春の雪解けが
終わるこれまで 開鎖となる。そのため、
冬季にゴルフを楽しむためには 暖かい
東海道方面にまで出かけねばならない。

こんな冬のある日のこと 固崎の町で仕
事をしてこの友人の招待で 勝手気使ひに
話しかけめ、親しい仲間が集つて、ゴル
フを楽しむことになった。

土曜日の仕事を早めにきり上げて 飯
田線の乗客となり、東海道へと急にだ
トンネルをひとつひとつ抜けることによ
り窓の眺めは明るくなる それによもな
つて、旅の心も浮き立つて、指定された
宿に着いた時は、春のよつと明るい気持
ちであった。そして、置酒歓談の一夜を

すこし 駿田 明るいゴルフ場でのプレー
を楽しんで別れた。

帰りの列車までは時間があったので、
近くの食堂にはいった。暖かい、とはい
つても冬である。暖房のきいた食堂はこ
こちよこ。やほほくない床内の一隅で
鉢植の常緑樹があった。見かけたことの
ないよつた植物である。熱帶植物だらう
か。広い、厚い、緑の葉を下垂して、疲
れ果てたよつた姿をさらしていた。

暖房のグリルに疲れ熱帶樹

小春日和

娘夫婦の住居は 甲府市街を北にはな
れた。武田神社に近いといふ。そんなこ
とから、娘夫婦の所を訪れたときには、武
田神社の境内に遊びることが多かった。

十一月の初旬ではなかろうか。この日

も、孫たちとつれだつて、武田神社の境
内で、楽しむひとときをすこした。折か
ら、暖かい小春日和。家族づれや親子づ
れ、また、若い男女のカップル。それに

加えて、大型バスでの、老若男女の觀光
客など。境内は賑わっていた。

はじめて、武田神社に参拝したのは、
甲府中学（旧制）に入学した年（昭和九年）
の春であったから、もう半世紀以上
も昔のこととなる。また、学徒出陣で出
征してゆく友人の武運長久を祈願したの
も、遠い昔のことになってしまった。月
並みの言葉だが、甲府の流れたるのは早
いものである。と、そんな想に耽るひ
とときでもあった。

山寺に時のすきゆく小春かな

後日、俳友のひとは、「武田神社八寺
デハナイ！」と言つた。「だが、コノ神社
二八武田信玄公が祀ラレテイルノダカラ、
寺テモイイデハナイカ！」と反論したが、
面白弁護だらうか。

家郷の冬

父の没後、母は郷里で、ひとり暮りし
をしていた。そのため、郷里をあとずれ
て、隣近所や親戚縁者に挨拶する機会が
少なかった。

多くなった。さういふは父が、生前、小学

校校長や村長など、村の要職についてい

たので、それにかかる冠婚葬祭などに

も出かけねばならないことが多くなった。

私の生まれ在所は甲府盆地のほぼ中央、

いまは、周辺の町村と併して中央市となつてゐるが、昔は稻作を中心とする農村

であった。そのため、本家を中心にして、親類縁者の住居が集まる傾向があつたらしい。いまでも、その形態を保つて

いる。そのため、母も、十数年にわたつて、ひとり暮らしでできたのである。

小正月もすきだといふ。おくればせながら、新年の挨拶かたがた郷里をおどされた。この年は、寒いにほひてから、きびしい寒さの連続で、甲府盆地にはめららしい真冬の凍てあつた。母の住む郷

里の家も、周辺の親類縁者の家々も、さういふには、その家々をつなぐ道までも、深閑として、大寒の凍てに耐えてこられたな眺めであつた。

家々につながる道も凍の中

開業ABC

中 村 雄 彦

平均寿命

平均年齢がまた延びた。女性 86 歳 男

性 79 歳（2009年7月17日の朝刊）

特に男の 79 歳は驚きである。以前せめて平均寿命まで生きたいと思つていて、まだ大分ある。

昔家内に「談」に「俺は天才だから 82

歳で死ぬぜ」と言つたことがある。当

時岡本太郎 浜名浩（写真家、私の叔父）は 82 歳で死んだ。あれから 10 年、最近では加藤周一、土居健郎（精神科医師、甘えの構造の作者）、川喜多一郎（いずれも敬称略）と著明な天才的な学者・評論家が相次いで 89 歳で亡くなつてゐる。7、8 歳は確実に死ぬのは延びた。

古くはショーペンハウアー 72 歳、長命といわれたゲーテ、カントは 80 歳と少し、一万円札の福沢諭吉は 66 歳、驚くことはない。時代が大いに関わる。

私自身人様より早く開業したので、何時までも続けずに早く引退しよつと思つた。10 歳ほど年上の大学医局の恩師が定年になつたら、潮時と思っていた。その教授も「くなつたが、弟子の私は往生際悪く未だに現役である。

若い時は老人をみると、何で何時まで生きているのか、詰まらない一生を早く終えればよいのに」と思つていた。しかし老若立場が変わると、一転、兎に角どうでもよいから生きたい」と思つた。人様



赤坂の旧東京ヒルトン
ホテルで（昭和58年）

からみれば 何で喜んで生きているのか、
と思われる美に無意味な生涯だったが、
本人は結構面白い。

一長生きはしたいが寝たきりや不自由

な体では困る」とよくいわれる。しかし寝つきになつても、それなりに暮らせば、愉快かもしねり。親友のW君は、数年前から脳卒中で不自由な身だが、学会で出席はしないが、種々の出版物に素晴らしい文を書いている。たとえ認知症になり、意思の疎通はなくなつても、本人にとっては面白い人生で死にたくはない。

先日「めまことさいじえの懇話会」
世話人会の席上、白幡雄一先生から
医家藝術の写真展があると知られ
て我流でお恥ずかしいのですが版画
を出させて頂きます。(耳鼻咽喉科)

奈良林 滋 ならばやしげる

（私のこと）位長生きしたいです」とい
われて複雑な気持ちになつた。言葉を知
らないといえはそれまでだが、率直とい
えは率直。若い人からみれば長生きをし
ている者は皆一括、姥捨て山的存続なの
であつて、いつした駄文を連ねていろお
前は長生きするよ」といわれそつだが、
先のことは全く分からぬ。

周りで勝手に「お底の神」といってい
るだけである。「やつ死んでもよい」など
こうして云ふのは、ぴんぴんして云ふ人
間の云い方で、贅沢である。いや死ぬと
なれば何とか生きたこと嘘でだすに決つ
て云ふ。

新しい! 発生し、厳しめにならなかった」と玉川は語る。

「薦高名な学者が一橋大学だと思つた
一流大学に講演に行つて、司会の学生に
「先生は老来ますますお元氣で余命幾ば
くもなく、枯れ木も山の賑わいです」と
紹介されて面食らつたと新聞で読んで大
笑いした。その講師も今からみればそれ
ほどの歳でなかつたのであつた。最近も
後輩の40歳台の医師から「せめて先生

「6月半日」8月8日「お盆の混雑に先行し半日」のフリー・タイムを得て、かねてから狙いをつけていた豪勝「礼文華峠」の夏の姿を列車車窓から満喫してきた。

往路はキハ281系の振子特急「スター北斗6号」(50006D函館行)であります洞爺へ向かふ。この列車は手稻からホームライナーとして札幌駅6番線に発車時刻の約30分前に入線しているので、早めに自由席を確保できた。出発時点で自由席の埋まり具合は6割ほど。

女性客室乗務員のアナウンスが流れて

禮文華越え

御園生潤

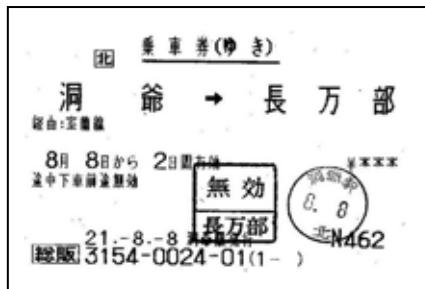
新札幌着 この日の天気予報は「曇時々晴」であったが、霧がつすりとかかっている。南千歳到着 新千歳空港の滑走路にも着陸機を誘導する照明灯が煌々と輝いていた。

晩別、東室蘭とやや視程の悪い中を過ぎ定刻運行を続けていたが、伊達紋別の手前で稀府（まれっぷ）で停車した。乗務車掌のアナウンスは「対向列車遅れのため待ち合わせ」とのこと。室蘭本線には単線区間が残っている。伊達紋別周辺では「稀府～洞爺」間で、列車ダイヤのやり繰りの難しいところだ。ちなみに同本線の芦小牧～岩見沢間にも単線区間がある。

5分ほどで、遅れの寝台特急「北斗星」（1レ）が通過していく。まもなく発車し、車掌の「寧なお詫びと遅延理由の説明があり、海沿いに出で伊達紋別着。今回のよう、「オフ」で列車に乗車し、少しの遅れは我慢できるが、ことビジネスや緊急の用事の場合は、列車遅延は致し方ないことにア解しつつも、いら立つてしまつものである。そつして生活を10年間続けた経験から車掌の心の籠つたアナウンスが痛いほど理解できる。よろしくお願い申し上げます。

荻野公嗣

（眼科）



水田地帯に入る。次の「長和（ながわ）」では遅れの「スーパー北斗3号」（キハ281系・5003D）が待つ。「」が通過する。驚きを鳴りしあい交換した後有珠、北入江信号場と「」を進め、7分遅れで洞爺着。ほぼ10年振りに同駅に降り立つた。

洞爺駅前の様子は当時のままであった。ただしサミット効果が、駅の諸設備（発射案内等）が改善され、札幌圏の様相を呈していた。駅前のロータリーの花壇の花が色とりどりで美しかった。

洞爺駅で20分ほど待ち、後続の普通列車（長万部行474D）に乗車する。この日は先頭がキハ40系で、両田がキハ150系、3分遅れで発車。予想に反して空席が目立つた同列車の「両田」窓を開け、夏の外気を満喫。やがて列車はトネル地帯に入る。次の豊浦では、2両目の分割（折り返しの東室蘭行下り普通列車となる）作業と、後発の函館行特急「北斗8号」の追い越し退避で、待避線通いなれた伊達紋別の駅を発車すると、



の2番線に約15分間停車のダイヤ。11分で2分遅れを吸収して定刻発車した。大岸、礼文と停車していく中、連續するトンネルとその切れ間から見える奇岩景勝が印象的であった。キャンプ場、海水

浴場も人影、テントが少なく、冷夏の影響をつかがわせた。
礼文を過ぎると「よいよ「礼文華峰」越えにかかる。国道が右側の上を走り鉄路は急な勾配に差しかかる。室蘭本線の全通に際して最大の難関とつた区域である。やがて左方

一ノ上り勾配になり、旧線

時代の狩勝峠を彷彿させる風

景となる。新礼文華山トンネルを抜けるヒトンネルとトンネルの間の「小幌(「ほの」)駅」に停車。あえぎながらの単行キハ40の峰越えも一息つく。若者4名が乗車。私にとっては小幌駅での停車は2度目の体験であった。静寂を経て、定刻に長万部到着。接続する小樽行(山線経由)の普通列車がすでに入線している。私は折

(北海道医療新聞1月8日付から転載)

り返しの「スーパー北斗7号」(キハ283系)で札幌へと戻り返す。

11分遅れの発車となつたが、指定席も何とか取れ、振子特急の2種のエンジン音を満喫・比較しつつ札幌駅へと帰着した。天候も持ち直し、伊達紋別のあたりから太陽が顔をのぞかせ有意義な1日を過ごせた。

鉄道を愛する医師たちは意外と多い。興味の対象は各人で異なるが、エッセイ、会話等を通してその博学ぶりがうかがえる。私はかつて鉄道写真の撮影が対象であつたが、当直を持ち体調を崩せない現在は、非常にエネルギー・時間・辛抱の要素の「鉄道写真」から、乗客の1人として車内で鉄道を楽しむように興味が変わってきた。そして若き口に撮影した少なからぬ鉄道写真を見返していく。

羽田沖事故（3）

元産業医の叫び

穂
苅
正
臣

私は、昭和四十八年に日本航空の常勤医になつた。四年後の昭和五十一年四月に羽田空港墜落事故が起つたのである。それを契機に私の運行業務真に本格的

「それで、運航業務員（ハイ・ツ・エー）の健康管理は私の分野ではなかつた。その頃、私は運航業務員に対してもあまり同情的ではなかつたし、むしろ「ストライキ」ばかりする彼らに嫌悪さえ覚えていた。

しかし、羽田沖事故後に厳しさを増した旧運輸省が行つた運航乗務員航空身体検査には田に余るものがあつた。そのような状態を深く知るにつけ、私は心の動くのを感じていた。

員に対するものと、その他の職員に対するものと一つあった。事故時、運航乗務員の健康管理を担当していたのは同級生のY医師で、彼は事故後責任を取らされたかたちで私の方の健康管理室に転属された。

率直なところ運航乗務員健康管理は航空法に定められたものしかやっていなかつた。

私の担当する分野は、整備職、客乗職、一般職で、本社機構の一つとして、医師の数や施設なども運航乗務員健康管理室より格段に上回り、内容も充実していた。

国際空港の成田展開に際し整備職の人々は人間ドック並みの健康管理を望み、若年者であっても年二回の胃レントゲン撮影や心電図検査を行っていた。これに對して運航乗務員の血液検査の数などは僅か五項目であった。

常勤医となる十年前から、私は週二回アルバイトで日航の羽田地区診療所の非常勤医師となっていました。そこでは昭和四

員に対するものと、その他の職員に対するものと二つあった。事故時、運航乗務員の健康管理を担当していたのは同級生のY医師で、彼は事故後責任を取らされたがたちで私の方の健康管理室に転属された。

十一年に早くも「社員の健康管理」を行つよつになつた。今日、一般的に使われてゐる「健康管理」と云ふ言葉さえなかつた時代である。

ある日のこと、羽田管理部福利課係長のY氏が医師を集めて

「これからは羽田地区で職員の『健康管理』を行つ」と言つたのである。

十一年に早くも「社員の健康管理」を行つてやつになった。今曰く一般的に使われてゐる「健康管理」とこの言葉さえなかつた時代である。

ある日のこと 羽田管理部福利課係長のY氏が医師を集め、「これからは羽田地区で職員の『健康管理』を行つ」、「いつ」

と語つたのである。

それは医師である私にとってはショックであった。医者が次第に要らなくなるのではとこつ心配が胸に沸いたからである。それまでは病気になつても個人管理に任せていた。会社が率先して社員を勤務時間中に健康チェックのために呼び出すよつたことはなかつた。

これまでにも体調が悪いと言つて離籍して診療所に来る人もいたが、今回始まつたのは、午前中の一定時間に強制的に健康検査のために呼び出す、とこつも

「十年に早くも『社員の健康管理』を行つてゐるに至つた。今日、一般的に使われてゐる「健康管理」と云ふ言葉さえなかつた時代である。

ある日のこと、羽田管理部福利課係長のY氏が医師を集めて「これからは羽田地区で職員の『健康管理』を行つ」と語ったのである。

それは医師である私にとってはショックであった。医者が次第に要らなくなるのでは、といつて心配が胸に沸いたからである。それまでは病気になつても個人管理に任せられていた。会社が率先して社員を勤務時間中に健康チェックのために呼び出すよつたことはなかつた。

これまでにも体調が悪いと書いて離籍して診療所に来る人もいたが、今回始まつたのは、午前中の一定時間に、強制的に健康検査のために呼び出す、といつものであつた。

「」とは「身体検査」をのぞけばそれまでになかった。企業内の疾病予防目的で職員を呼び出す」となど単品的な出来事だったと言える。振り返れば、非常勤時代に健康管理（疾病管理）を比較的早期に行なつていて、これは病気になつてしまつてからの強制的な治療で、予防的な意味合いは少なかつたと思われる。

冒頭で私は昭和四十八年に日航の常勤医になつたと述べたが、その切掛けは産業医制度が出来たことだった。日航から私に産業医との連絡があり、それを受けたのである。

健康管理課^{新設}初の医療スタッフは、ドクター一名、ナース三名であった。それは羽田の狭くて暗い部屋に血圧計と聴診器、それに電話一本だけの貧弱なものであった。

健康管理課^{新設}初の医療スタッフは、ドクター一名、ナース三名であった。それは羽田の狭くて暗い部屋に血圧計と聴診器、それに電話一本だけの貧弱なものであった。

健康管理課^{新設}初の医療スタッフは、ドクター一名、ナース三名であった。それは羽田の狭くて暗い部屋に血圧計と聴診器、それに電話一本だけの貧弱なものであつた。

健康管理業務担当の事務職は羽田から遠く離れた都心の本社において、われわれ医療スタッフだけでは何から始めたらよこのかさえ見当もつかない有様であつた。

私が日航に勤務していた期間に事故、ハイジャックなどがすべて集中したと言つてい。

最後の事故が「御巣鷹号」の航空機事故であった。私が退職後は一度も航空機

健康管理を担当するようになつたが、「健康診断」を行つ以外には日常生活の予防的なものはまづなかつた。

こんな状況の中で、東海大学の社会体育学部一教授を医学に訪ね、日航職員の「体力づくり」をお願いした。これが、日航の健康管理は体力測定から始まった。

この業務は羽田ライン整備工場を皮切りに開始され、やがて^{新設}業務員に関しては「Kマーク」なる名称で、一^{新設}健康の日」が設けられた。さらに、昭和五十二年の^{新設}業務員の入社試験には体力測定が導入されたのである。日常の身体検査は、現在の「人間ドック」並みの内容であつた。さうして、それまで年間の一定期間に限定していた身体検査は、生年出典を基準に通年に均して行つよつになつた。

私が日航に勤務していた期間に事故、ハイジャックなどがすべて集中したと言つてい。

彼らは、このよつた規定の作成に協力した慈恵医大の医師たちを恨み、そのとばかりを慈恵医大卒の私たち産業医に

事故や事件は起つてしない。常々苦労の多かった時期と言えるが、いじつた事故事件がわれわれ医師やナースの存在を必要とし、その一方で健康管理の充実に繋がつたと言つてもよい。

私が運航業務員の健康管理を担当するようになったのは、羽田冲墜落事故の四年後であり、事故直後にパイロット担当だったY医師に代わったのは、慈恵医大出身のH医師であった。

言つまでもなく、事故後運航業務員に対する健康管理をより厳しくする必要があつとの認識が生じたのは当然のことであつた。

ところが、運輸省の作成した新しい基準はあまりにも厳しく且つ非常識であり、少しでも基準から外れると不格とされたため、離職する運航業務員が多数発生した。

彼らは、このよつた規定の作成に協力した慈恵医大の医師たちを恨み、そのとばかりを慈恵医大卒の私たち産業医に

までも向けた。

一いつした状況の下で、運航乗務員の健康管理体制を確立すべしとのお詫びが私に回ってきたのである。

私は心諾しなかつた。そして、中東地区の巡回診療に出かけた。ところが、なんと健康管理部長のH氏がその巡回についたのである。そして、彼は運行乗務員の健康管理の直面する苦境を訴えた。私の考えが変わった。

一いつして運航乗務員の健康管理を引き受けたことになつた私はいくつかの条

— したじめは・ひとこと —

石 山 英 一

今日は私用（法事）と重なり誠に残念ですが親類会場で皆様に誤認挨拶出来ません。『医家藝術誌』で勉強し次回に出品させて戴きたく存します。宜しく御願い申し上げます。

（耳鼻咽喉科）

件」を出した。会社側はそれすべての条件を飲んだ。かくして全社員の健康管理づくりの体制がはじまつたのである。やがて健康管理だけで東京、成田地区で百四十人（うち常勤医十三人）の医師が配備され、CT、MRI、カマードブラー、ホルター心電図、胃カメラなどの設置も充実された。その結果、航空関係の研究も行われ、海外の学会発表が年に十件以上にも及んだのである。

私は入社して数年後に各国の健康管理を視察して回つた。その際、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツなどのエアラインの健康管理施設を視察したのは言うまでもない。私が日航を去る頃には、それらの国に比較しても劣るることのない立派な健康管理体制が出来上がつていたと確信して言つて。

現在、日本航空は業績不振企業の再生のために国と金融機関に支援を要求しているような状態だ。その結果、健康管理体制が衰退し、殺伐たる状況下にある。

医者も仕事に対する意欲をなくし、ナースも辞めて士気の低下が甚だしい。日常の健康診断は外部に依存し、効率の悪い仕事に陥つていて、会社が声を大にして叫ぶ経費節減のつもりが、かえつて高値なものについている。運航乗務員に身体のことで事故が起きたならば、この会社は終わりである。運航乗務員の健康問題は、運航乗務員だけの問題ではない。それは、お客様の命を守ることでもある。人の数を減らすにとばかり考えていて、安全に繋がる健康管理が「効な投資」であることを忘れてはならない。

高齢社会となつた今、企業も自社職員の健康の大切さを十分に認識していることである。しかし、この認識が現実に生かされるかどうかは、あくまでも企業業績が良い時の話である。つに思われて仕方がない。

安全を最優先する公共交通機関たる企業は、業績が悪いからと、職員の命や健康をながしろにして、いいものであらうか。

蝶の楽園（私と蝶の物語）

第一話 チョ「大好き

大塚博太

それは九月十五日の朝のこと、何気なくベランダに置かれてあるレモンの鉢植を眺めていたとき、一枚の葉の上を一ヶ位



レモンの葉に白と黒模様の幼虫が2匹、アゲハのようだ

の黒い線状の虫が動いていたのを見つけたのです。そして虫は毎日加速的に大きくなり成長し、白と黒のまだらな幼虫だと変わっていました（写真⑤）。

よく見ると、白と黒模様の虫が一匹、また緑色の虫が一匹見つかりましたが、形態からして、やはり蝶の幼虫に間違ひなさうです。

そして私は、この子供達に名前をつけて観察してみようと決めたのです。名前はすぐに決まりました。蝶の子供だからチョ「」、そしてチョコレートは私が毎日口にする大好物の食べ物なのです。その日のうちに色別にグリーンチョコ「」、ハラシクチヨ「」と呼びながら話しかけていたのです。そして、二つの名前がこの子供が成虫になつたら、今度は羽根の色で呼ぶよつとしようかななど、考えていたのです。

そして、以前時じておいたオレンジの種が芽を出して押しぬけてくる

すくすく育つてゐるオレンジの幼木



のを見つけ、一ヶ月の九月の二連休を利用して間引きをして植え替えたのですが、オレンジの幼木を今までと違つて伸び育つことが出来て嬉しそうに私は感づられたでした（写真⑥）。

春までには、どんなに成長するか楽しみに待つてゐるのです。

私はこの三連休を総べて可愛い蝶の為に使えたことを嬉しく、また気持ちよい満足感に満たされたのでした。

そして九月一十九日、それ迄いた幼虫達はいつとはなしに姿を消し、この日に最後の一匹も見えなくなってしまったのでした。これから迎える冬に対し、蛹になつて寒さを越すのかなどと考えてみると、蝶の羽はたきを耳にしたのです。それは薄ねずみ色の小さな可愛い蝶でした。急速、図鑑を調べシジミチョウ科の一種で夏にも飛んでくることを知ったのです。そしてカメラを持って戻ってきたときには、もつろは見当たりませんでした。色々と教えてくれて有難う。そしてまた遊びに来てよ。

今年の初夏の一刻を楽しく過ごさせてくれた蝶さんたちよ、来年もまた大勢の友達を連れて飛んできてくれ、あなた達に素敵な居場所を作つて聞いているからね。

ジェノヴァ懐古旅行（1）

美濃部 欣平

1962年で、私にとって最初の外国留学となるイタリア政府給付留学生として滞在した北イタリアのジェノヴァへ、昨年9月18日～23日まで6日間、約半



ガリバリリー通り 白の宮殿、赤の宮殿、ドーリア・トゥルシ宮殿がある

場から四方八方へ広い道路が走り、地下鉄、バス、タクシーが駆けめぐる。そのひとつの中、「九月二十日通り」入り口の近くにある古いホテル、ブリストルパレスに宿を取つた。その通りはピクトリア広場まで続く、長い通りで、車道を挟んで左右に細長く歩道が続く、にぎやかな通りだった。

私はその通りを、留学時代一番よく利用した。ピクトリア広場を過ぎると、狭い路地になり、その露地の両側には小さな商店が並んでいた。

クリーニング店、雑貨屋、下宿屋、映画館などがあり、私が休みの日などよく行き交つたり、買物をしたりしたものだった。私はその路地から、また大きな通りの川の近くにある学生寮（カーサ・トリ・シウテ・コデンテ）が私の一年間の留学中の宿

ソンフーナ門 12世紀に地中海を制した西洋
王国シェノヴァの権力の象徴



となつた。

半世紀後、私は再びイタリア航空でミラノを経由し、タクシーでジェノヴァへ向かつた。私が留学したのはジェノヴァ大学医学部神経外科だったが、タクシーの運転手に連れて行かれたのは、神経内科の病棟だった。そこはジェノヴァの郊外 サンマルチーノ地区にあつた。

待合室で散々待たされた挙句、私は待つたびれて、もとのタクシーでフェラーリ広場へ戻つた。私の予約したホテル

はヴェンティ・セッテンブレ（九月）廿日大通り（の三軒町）にあつた。フェラーリ広場は、ジェノヴァ観光の出発点であった。そこには多くのバスやタクシーが寝待ちしていた。

私たちの観光も、この広場を中心が始まつた。小さな町なので、先ず歩いて古い貴族の館が密集するガリバルディー通りから始めた。ここには白い王宮や赤い王宮といわれる宮殿群があり、一番豪裕者の多い通りだった。この通りは古くはストラーダヌオーヴァ（新しき道）と



⑤ジェノバ大学医学部神経内科外来患者待合室の表示の前で筆者 ⑤サン・マッティオ広場にある日曜露天マーケット、買い物客で混雑している

も言われた。商店が密集する路地を抜け、港に出る。港は私が日本を出て、イタリアへ入国、出国したときの思い出の港だった。

その港からトロリーバスに乗って、山のほうに向かつて町を一巡する。ホテルへの帰途、有名な「ロンブスの生まれた家の跡に立ち寄る。広場に戻りバールでサンディッチとカブチーノをいただく。

